

1985年10月25日 33号



中村 哲・尚子

Dr. Tetsu NAKAMURA
% Mission Hospital Peshawar
Peshawar, N. W. F. P
PAKISTAN

フライトは成田を4時間おくれて出発、イスラマバードに着いたのは、真夜の午前1時頃。おまけにワークショップの器具類でパキスタンで入手しにくいものを1ヶ月がかりで集めた荷物が40kg紛失。惨々な旅になってしまいました。結局クタクタで3日の昼頃ペシャワールに戻ってきました。

気候はずいぶんしのぎやすくなっていますが、日中はまだ35℃を越え、日射しは厳しいです。家の中は埃だらけで家内は毎日、しばらくは電気掃除機をうならせておりました。

私も戻ってからの事務処理におわれて手紙をゆっくり書く間もありませんでした。何といっても例の40kgもの荷物をなくしたショックは大きく、2～3日は何ともゆううつな気持でおりました。

ワークショップの方は、小屋も完成まじかとなり、何とか形は整いつつあります。少なくとも来年早々にはオープン可能です。(以上、9月16日付)

当地は涼しくなってきました。夜は寒いくらいです。日本も今が一番良い季節でしょう。ほこりでかすむ「おぼろ月」を見ながら、美しい秋の月を想像し、ちょっぴり年がいもなくおセンチになることもあります。ここは全く殺伐な、自然そのままのようなところで、日本の自然を思っ改めてわれに帰るような気がします。ということは、私自身も次第にここになじんできて「殺伐」になってきたということで、案外こんなところが自分にあっているのでしょうか。最近はさして異和感ありません。町を歩いていても日本人と思われることは先ずなく、気楽なものです。

最近はだんだん忙しくなり、根性のない私はほぼ限界状況。夜遅くベッドに入るときは、ノックアウト寸前にラウンドの終了を告げられてホッとするボクサーの気持がよくわかります。

秋子も、もうすっかりなじんだようで最近近所の女の子にまじってワイワイ遊んでまわっています。どんな子になるやら、わが子ながら興味深く見守っております。

みなさんもお元気で。(10月14日付)